

科目	医療的ケア 1									
担当	鋤柄 智子						年次	2 年次	時期	前期
開講回数	16	時間	32 (24)	授業方法	講義	領域	医療的ケア		医療的ケア	
目的・ねらい	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。									
到達目標	①医療的ケアを受ける利用者や家族の気持ちが理解できる。(1.5h) ②喀痰吸引と経管栄養について医療職と介護職の連携について説明できる。(2h) ③安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性を説明できる。(4h) ④消毒と滅菌について説明ができる。(2.5h) ⑤急変時の対応、事前準備、報告について説明ができる。(3h) ⑥呼吸のしくみとはたらきを理解し、吸引に関する内容、方法、留意点が説明できる。(11h)									
内容・概要										
回数	テーマ				内容			授業方法		
1	第1章 基礎知識 人間と社会				個人の尊厳と自立、医療の倫理、利用者や家族の気持ちの理解			講義		
2	保健医療制度とチーム医療				保健医療に関する制度、医行為に関係する法律			講義		
3	安全な療養生活				喀痰吸引や経管栄養の安全な実施			講義		
4					喀痰吸引や経管栄養の安全な実施、救急蘇生			講義		
5	清潔保持と感染予防				感染予防、職員の感染予防			講義		
6					療養環境の生活、消毒法、滅菌と消毒			講義		
7	健康状態の把握				身体・精神の健康、健康状態を知る項目			講義		
8					急変状態について			講義		
9	第2章 喀痰吸引 概論				呼吸のしくみとはたらき、呼吸の変化			講義		
10					喀痰吸引			講義		
11					人工呼吸器、子供の吸引			講義		
12	喀痰吸引実施手順				気持ちの理解			講義		
13					感染と予防、危険性と事後安全確認			講義		
14					急変・事故発生時の対応、事前対策			講義		
15					器具・器材、清潔の保持、技術と留意点			講義		
16					技術と留意点、その他のケア、報告・記録			講義		
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア（中央法規）							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 筆記試験							

科目	医療的ケア 2									
担当	飯島 佳代						年次	2 年次	時期	前期
開講回数	18	時間	36(27)	授業方法	講義	領域	医療的ケア		医療的ケア	
目的・ねらい	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。									
到達目標	①吸引の技術と留意点について説明ができる。(11h) ②消化器系のしくみとはたらきを理解し、経管栄養に関する内容、方法、留意点が説明できる。(8h) ③経管栄養の技術と留意点について説明ができる。(8h)									
内容・概要										
回数	テーマ				内容			授業方法		
1	第2章 喀痰吸引 手順解説				器具・器材、清潔の保持			講義		
2					吸引の技術と留意点			講義		
3					吸引の技術と留意点			講義		
4					報告及び記録			講義		
5	経管栄養				消化器のしくみとはたらき、消化器の症状			講義		
6					経管栄養とは、注入する内容の知識			講義		
7					実施上の留意点			講義		
8					子どもの経管栄養について			講義		
9					感染予防			講義		
10					利用者、家族の気持ちと対応			講義		
11					危険、注入後の安全確認			講義		
12					急変・事故発生時の対応、事前対策			講義		
13	手順解説				器具・器材、清潔の保持			講義		
14					経管栄養の技術と留意点			講義		
15					経管栄養の技術と留意点			講義		
16					経管栄養に必要なケア			講義		
17					報告及び記録			講義		
18					報告及び記録			講義		
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア（中央法規）							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 筆記試験							

科目	医療的ケア 3									
担当	高木 直美、鋤柄 智子、飯島 佳代、板部 美紀子						年次	2 年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	演習	領域	医療的ケア		医療的ケア	
目的・ねらい	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。									
到達目標	①シミュレーターを用いて、口腔内の喀痰吸引ができる。 ②シミュレーターを用いて、鼻腔内の喀痰吸引ができる。 ③シミュレーターを用いて、気管カニューレ内部の喀痰吸引ができる。 ④シミュレーターを用いて、経鼻経管栄養ができる。 ⑤シミュレーターを用いて、胃ろうによる経管栄養ができる。 ⑥シミュレーターを用いて、救急蘇生法ができる。									
内容・概要										
回数	テーマ				内容			授業方法		
1	喀痰吸引				口腔内の喀痰吸引			演習		
2	〃				口腔内の喀痰吸引			演習		
3	〃				鼻腔内の喀痰吸引			演習		
4	〃				鼻腔内の喀痰吸引			演習		
5	〃				気管内カニューレ内部の喀痰吸引			演習		
6	〃				気管内カニューレ内部の喀痰吸引			演習		
7	経管栄養				経鼻経管栄養			演習		
8	〃				経鼻経管栄養			演習		
9	〃				経鼻経管栄養			演習		
10	〃				胃ろうによる経管栄養			演習		
11	〃				胃ろうによる経管栄養			演習		
12	〃				胃ろうによる経管栄養			演習		
13	救急蘇生法				救急蘇生法			演習		
14	〃				救急蘇生法			演習		
15	〃				総括			演習		
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア（中央法規）							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 実技試験							

科目	介護過程 3（施設）									
担当	森 由香子、板部 美紀子、高木 直美、彦坂 亮						年次	2 年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	演習	領域	介護		介護過程	
目的・ねらい	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。									
到達目標	①紙上事例の計画・情報の分析・課題の抽出・目標設定・計画ができる。 ②実習の受け持ち事例の計画・情報の分析・課題の抽出・目標設定・計画ができる。 ③学生が作成した介護計画について発表することができる。 ④ケースカンファレンスの理解ができる。 ⑤カンファレンスを展開することができる。									
内容・概要	紙上事例、実習受け持ちの事例、計画立案、ケースカンファレンス									
回数	テーマ				内容				授業方法	
1	導入				科目の目的・必要性・進め方				講義	
2	利用者の状況に応じた介護過程の展開				事例 1	情報収集と整理			演習	
3	利用者の状況に応じた介護過程の展開				事例 1	情報の分析・課題の抽出			演習	
4	利用者の状況に応じた介護過程の展開				事例 1	目標の設定			演習	
5	利用者の状況に応じた介護過程の展開				事例 1	計画			演習	
6	利用者の状況に応じた介護過程の展開				事例 2	情報収集と整理			演習	
7	利用者の状況に応じた介護過程の展開				事例 2	情報の分析・課題の抽出			演習	
8	利用者の状況に応じた介護過程の展開				事例 2	情報の分析・課題の抽出			演習	
9	利用者の状況に応じた介護過程の展開				事例 2	目標設定			演習	
10	利用者の状況に応じた介護過程の展開				事例 2	計画			演習	
11	利用者の状況に応じた介護過程の展開				ケースカンファレンスの準備				演習	
12	利用者の状況に応じた介護過程の展開				実践・評価・修正				演習	
13	利用者の状況に応じた介護過程の展開				実践・評価・修正				演習	
14	利用者の状況に応じた介護過程の展開				実践・評価・修正				演習	
15	まとめ				演習総括				講義	
使用テキスト・参考文献			なし							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 成績							

科目	介護過程 4（居宅）									
担当	長岩 嘉文、森 由香子、沖田 美沙						年次	2 年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義・演習	領域	介護		介護過程	
目的・ねらい	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。									
到達目標	①居宅介護の特徴を理解できる。 ②ケアマネジメントを理解できる。 ③介護保険制度での居宅介護サービスについて理解できる。 ④介護者の「負担」について理解できる。 ⑤紙上事例をもとに居宅介護過程の展開を理解できる。 ⑥ケアカンファレンスの理解ができる。 ⑦一連の手順で技術が習得でき、基礎的な知識・技術を体得できる。									
内容・概要	ケアマネジメントの意義、展開、居宅ケアプランの理解、実践的展開、チームアプローチ、ケアマネジャー、社会資源、サービス担当者会議									
回数	テーマ				内容				授業方法	
1	導入				科目の目的・必要性・進め方				講義	
2	ケアマネジメントの理解（1）				居宅介護サービスの理解				講義	
3	ケアマネジメントの理解（2）				介護保険サービスの理解 ケアマネジャーの理解				講義	
4	ケアマネジメントの理解（3）				家族介護者の負担の理解				講義	
5	居宅での清潔				足浴				演習	
6	居宅での清潔				足浴				演習	
7	居宅での清潔				洗髪				演習	
8	居宅での清潔				洗髪				演習	
9	ゲスト講義についての事前学習				訪問入浴についての事前学習				講義	
10	ゲスト講義				訪問入浴デモ見学				演習	
11	ゲスト講義からの学び振り返り				訪問入浴についての振り返り				講義	
12	利用者の状況に応じた介護過程の展開				事例 居宅介護				演習	
13	利用者の状況に応じた介護過程の展開				ケアカンファレンスの準備				演習	
14	利用者の状況に応じた介護過程の展開				ケアカンファレンスの展開				演習	
15	まとめ				演習総括				講義	
使用テキスト・参考文献			なし							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 期末試験成績							

科目	介護過程 5 (総合)									
担当	森 由香子、彦坂 亮						年次	2 年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	演習	領域	介護		介護過程	
目的・ねらい	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。									
到達目標	①研究の意義・目的を理解できる。 ②研究方法・仮説・調査・考察・発表等一連の研究方法を理解することができる。 ③文献検索等探究心・自主的に取り組むことができる。 ④成果物について学内でプレゼンテーションができる。 ⑤ケーススタディをまとめることができる。									
内容・概要	個人研究、事例研究、文献検索、プレゼンテーション									
回数	テーマ				内容			授業方法		
1	導入				科目の目的・必要性・進め方・下準備			講義		
2	研究テーマに関する取り組み				はじめに、背景			演習		
3	〃				研究方法			演習		
4	〃				仮説			演習		
5	〃				調査			演習		
6	〃				考察、文献検索			演習		
7	〃				考察、文献検索			演習		
8	〃				考察、文献検索			演習		
9	〃				考察、文献検索			演習		
10	〃				中間発表			講義		
11	ケーススタディをまとめる				情報の整理			演習		
12	〃				目標設定			演習		
13	〃				計画立案			演習		
14	〃				考察、文献検索			演習		
15	総括				個人発表			講義		
使用テキスト・参考文献			なし							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 期末試験成績							

科目	介護実習Ⅱ									
担当	板部 美紀子、彦坂 亮、森 由香子、高木 直美						年次	2 年次	時期	前期
開講回数		時間数	180	授業方法	実習	領域	介護		介護実習	
目的・ねらい	本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。									
到達目標	①利用者を観察し、根拠に基づいた生活支援技術を実践できる。 ②レクリエーションの企画運営、地域との交流を学ぶことができる。 ③多職種の役割を理解し、連携の在り方について学ぶことができる。									
内容・概要	入所施設介護実習、訪問介護実習									
回数	テーマ			内容				授業方法		
1	入所施設介護実習			・利用者を観察する 情報収集、記録整理 ・生活支援技術を習得する 利用者の状況に応じ安全・安楽・残存機能を活用した実践 コミュニケーション、観察、環境整備、移動、食事、排泄、入浴介助、レクリエーションの企画運営 ・地域における生活支援を体験する 行事、地域交流への参加 ・多職種協働の実践を知る 看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士等、他の専門職の役割や業務の理解 各職種と介護職の連携の理解 サービス担当者会議、ケースカンファレンス等への参加、説明				実習		
2	訪問介護実習			訪問介護等の特性を学び、（個別）介護過程の展開について学ぶ				実習		
使用テキスト・参考文献			なし							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 成績							

科目	介護実習Ⅲ									
担当	森 由香子、彦坂 亮、高木 直美、板部 美紀子						年次	2 年次	時期	後期
開講回数	15	時間	180	授業方法	実習	領域	介護		介護実習	
目的・ねらい	本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。									
到達目標	①受け持ち利用者の介護過程を展開できる。 ②ケースカンファレンスを理解できる。 ③リーダー業務を理解できる。 ④職業倫理、介護観を高めることができる。									
内容・概要	ケーススタディ									
回数	テーマ				内容				授業方法	
1	入所施設介護実習				・介護過程を展開する 利用者の情報収集、分析 介護計画を立案 実践 考察・修正 サービス担当者会議、ケースカンファレンス、 申し送りなどを体験 ・リーダー業務を体験する ・施設全般について理解する ・職業倫理を確立する ・自己洞察を高める				実習	
使用テキスト・参考文献			なし							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 成績							

科目	介護総合演習Ⅱ									
担当	板部 美紀子、彦坂 亮、森 由香子、高木 直美						年次	2 年次	時期	前期
開講回数	20	時間数	40	授業方法	講義・演習	領域	介護		介護総合演習	
目的・ねらい	介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。									
到達目標	①利用者理解を深めることができる。 ②知識と技術を統合し、介護技術の確認ができる。 ③利用者の状況をとらえ科学的根拠に基づいた介護実践を考えることができる。 ④実習の目的、目標を理解できる。 ⑤実習を振り返り学びと課題を報告、発表できる。									
内容・概要	実習の意義・方法・対象者・目的・その他実習準備・実習報告・技術復習									
回数	テーマ			内容				授業方法		
1	導入			科目の目的・必要性・進め方				講義		
2	事前学習			介護の実践 とらえ方				講義		
3	事前学習			介護技術				演習		
4	事前学習			介護技術				演習		
5	施設実習準備			実習の心構え 実習記録の書き方				講義		
6	施設実習準備			事前訪問				講義		
7	施設実習中の学習			実習の振り返りと課題				講義		
8	施設実習中の学習			実習の振り返りと課題				講義		
9	施設実習中の学習			実習の振り返りと課題				講義		
10	施設実習中の学習			実習の振り返りと課題				講義		
11	施設実習中の学習			実習の振り返りと課題				講義		
12	施設実習中の学習			実習の振り返りと課題				講義		
13	施設実習中の学習			実習の振り返りと課題				講義		
14	施設実習後の学習			実習記録発送準備				講義		
15	施設実習後の学習			実習報告会				講義		
16	施設実習後の学習			事例検討				講義		
17	施設実習後の学習			施設実習総括				演習		
18	訪問介護実習準備			実習の心構え				講義		
19	訪問介護実習準備			実習記録の書き方				講義		
20	訪問介護実習後の学習			実習の振り返りと課題、訪問介護実習総括				講義		
使用テキスト・参考文献			なし							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 成績							

科目	介護総合演習Ⅲ									
担当	森 由香子、彦坂 亮、高木 直美、板部 美紀子						年次	2年次	時期	後期
開講回数	20	時間	40	授業方法	講義・演習	領域	介護		介護総合演習	
目的・ねらい	介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。									
到達目標	①介護過程の理解を深めることができる。 ②実習の目的、目標を理解できる。 ③実習を振り返り学びと課題を報告、発表できる。 ④知識、技術を振り返り卒業到達度を確認できる。									
内容・概要	実習の意義・方法・対象者・目的・その他実習準備・実習報告・技術復習									
回数	テーマ			内容					授業方法	
1	導入			科目の目的・必要性・進め方					講義	
2	事前学習			介護過程の理解					講義	
3	事前学習			介護過程の理解					講義	
4	事前学習			介護過程の理解					講義	
5	施設実習準備			実習の心構え・実習記録の書き方					講義	
6	施設実習準備			事前訪問					講義	
7	施設実習中の学習			実習の振り返りと課題					講義	
8	施設実習中の学習			実習の振り返りと課題					講義	
9	施設実習中の学習			実習の振り返りと課題					講義	
10	施設実習中の学習			実習の振り返りと課題					講義	
11	施設実習後の学習			実習記録発送準備					講義	
12	施設実習後の学習			実習報告会					講義	
13	施設実習後の学習			事例検討					講義	
14	施設実習後の学習			事例検討					講義	
15	施設実習後の学習			事例検討					講義	
16	施設実習後の学習			事例検討					講義	
17	施設実習後の学習			知識確認					講義	
18	施設実習後の学習			技術確認					講義	
19	施設実習後の学習			フィードバック					講義	
20	施設実習後の学習			総括					講義	
使用テキスト・参考文献			なし							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 成績							

科目	介護の基本4（多職種連携）									
担当	板部 美紀子						年次	2年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	介護		介護の基本	
目的・ねらい	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。									
到達目標	①地域連携の意義・目的が理解できる。 ②各市町村、都道府県の機能と役割、連携等を理解できる。 ③ボランティア等のインフォーマルサービスを理解できる。 ④多職種連携（チームアプローチ）の意義・目的を理解できる。 ⑤他の福祉職の機能と役割、連携を理解できる。 ⑥保健医療職の機能と役割、連携を理解できる。									
内容・概要	医療従事者、セラピスト、福祉業務従事者による講義									
回数	テーマ			内容				授業方法		
1	事例検討			事例の理解				講義		
2	〃			介護計画立案				演習		
3	〃			介護計画立案				演習		
4	多職種連携（チームアプローチ）			相談員の役割と機能、連携				講義		
5	〃			介護計画見直し				講義		
6	〃			介護支援専門員の役割と機能、連携				講義		
7	〃			看護師の役割と機能、連携				講義		
8	〃			歯科医師の役割と機能、連携				講義		
9	〃			薬剤師の役割と機能、連携				講義		
10	〃			栄養士の役割と機能、連携				講義		
11	〃			音楽療法士の役割と機能、連携				講義		
12	〃			言語聴覚士の役割と機能、連携				講義		
13	〃			介護計画見直し				演習		
14	〃			介護計画見直し				演習		
15	まとめ			発表、総括				演習		
使用テキスト・参考文献			なし							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 期末試験成績							

科目	介護の基本5（リスクマネジメント）									
担当	森 由香子						年次	2年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	介護		介護の基本	
目的・ねらい	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。									
到達目標	①介護を取り巻く状況を理解できる。 ②リスクマネジメントの基本視点を理解できる。 ③介護現場の報告書を理解できる。 ④介護事故の要因分析・事故防止が理解できる。 ⑤事故発生時の緊急対応が理解できる。 ⑥介護サービス事業者の法的責任が理解できる。									
内容・概要	介護保険導入の背景と改正、介護従事者の倫理、リスクマネジメントの視点、福祉現場の報告書の意味、事故防止策、法的責任									
回数	テーマ				内容				授業方法	
1	導入				科目の意義、目的、必要性				講義	
2	介護従事者の倫理				職業倫理（高齢者虐待、身体拘束等）				講義	
3	リスクマネジメント総論				リスクマネジメントの基本視点				講義	
4	リスクマネジメントの必要性				リスクマネジメントの特性				講義	
5	リスクマネジメントの体制				組織としての体制、組織、委員				講義	
6	介護福祉現場の報告書				事故報告書、ヒヤリハット報告書の意味				講義	
7	介護事故の要因分析				介護事故の要因、各モデル				講義	
8	事故事例の予防対策検討				ヒヤリハット、介護事故予防、防止策				講義	
9	事故発生時の対応				連絡、緊急対応、報告				講義	
10	介護サービス事業者の責任、苦情				法的責任、苦情対応、記録管理				講義	
11	事例検討				介護事故事例				演習	
12	事例検討				介護事故事例				演習	
13	事例検討				介護事故事例				演習	
14	感染の対応、災害対策				感染予防対策、災害対策				講義	
15	まとめ				講義総括				講義	
使用テキスト・参考文献			なし							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 期末試験成績							

科目	人間関係とコミュニケーション2（チームマネジメント）									
担当	村松 優						年次	2 年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義・演習	領域	人間と社会		人間関係とコミュニケーション	
目的・ねらい	介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。									
到達目標	①リーダーシップの必要性を理解できる。 ②リーダーシップの変遷と変革を理解できる。 ③リーダーシップとマネジメントの違いを理解できる。 ④福祉現場の組織の役割と機能を理解できる。 ⑤福祉現場の各管理者の役割と機能、連携を理解できる。 ⑥介護福祉士のキャリアパスを理解できる。									
内容・概要	リーダーシップとは、リーダーシップの変遷と変革、福祉現場の組織の役割・機能、各管理者の役割と機能・連携、介護福祉士のキャリアパス									
回数	テーマ			内容				授業方法		
1	導入			科目の意義・目的・進め方				講義		
2	マネジメントの基礎知識			介護とマネジメント①				講義		
3	〃			介護とマネジメント②				講義		
4	〃			介護ケアのマネジメント①				講義		
5	〃			介護ケアのマネジメント②				講義		
6	〃			介護サービスのマネジメント①				講義		
7	〃			介護サービスのマネジメント②				講義		
8	リーダーシップの基礎知識			リーダーシップに必要な知識と技術①				講義		
9	〃			リーダーシップに必要な知識と技術②				講義		
10	〃			リーダー会議 指導方法の検討①				演習		
11	〃			リーダー会議 指導方法の検討②				演習		
12	〃			リーダー会議 指導方法の検討③				演習		
13	〃			リーダー会議 指導方法の検討④				演習		
14	〃			リーダーシップに必要な知識と技術・総括①				演習		
15	〃			リーダーシップに必要な知識と技術・総括②				演習		
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解（中央法規）							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 期末試験成績							

科目	介護の基本6（総合）									
担当	森 由香子、高木 直美、彦坂 亮、板部 美紀子						年次	2年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	介護		介護過程	
目的・ねらい	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。									
到達目標	①人間と社会・介護・こころとからだのしくみを総合的・多面的に理解できる。 ②補完的講義として弱点を克服し学習ができる。 ③過去問を反復して学習し解説を作成することで理解を深めることができる。									
内容・概要	人間と社会・介護・こころとからだのしくみの総合的・多面的理解、各科目の弱点補完、過去問を反復し解説を作成する。									
回数	テーマ				内容				授業方法	
1	こころとからだのしくみ				こころとからだのしくみ等				講義	
2	人間と社会				社会の理解等				講義	
3	介護				生活支援技術等				講義	
4	国家試験対策				小クラス体制（面談含む）				学習	
5	国家試験対策				小クラス体制（面談含む）				学習	
6	人間と社会				第2回 模擬試験				試験	
7	介護				第2回 模擬試験				試験	
8	こころとからだのしくみ				第2回 模擬試験				試験	
9	国家試験対策				小クラス体制（面談含む）				学習	
10	国家試験対策				小クラス体制（面談含む）				学習	
11	国家試験対策				小クラス体制（面談含む）				学習	
12	国家試験対策				小クラス体制（面談含む）				学習	
13	国家試験対策				小クラス体制（面談含む）				学習	
14	国家試験対策				小クラス体制（面談含む）				学習	
15	国家試験対策				直前オリエンテーション				学習	
使用テキスト・参考文献			未定（8月頃決定）							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 期末試験成績							

科目	コミュニケーション2（応用）									
担当	彦坂 亮						年次	2年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	介護		コミュニケーション技術	
目的・ねらい	対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。									
到達目標	①具体的・実践的なコミュニケーションの方法を理解できる。 ②事例検討、ロールプレイ等、様々なコミュニケーション技術を習得できる。 ③介護におけるチームのコミュニケーションを図ることができる。									
内容・概要	事例検討、言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション、認知症の方、言語障害の方、聴覚障害の方、視覚障害の方、その他									
回数	テーマ				内容				授業方法	
1	導入				科目の目的・必要性・進め方				演習	
2	利用者の特性に応じたコミュニケーション				コミュニケーション障害				演習	
3	コミュニケーション障害のある利用者の理解				対応の視点、基本				演習	
4	利用者の特性に応じたコミュニケーション				高次機能障害に応じたコミュニケーション				演習	
5	利用者の特性に応じたコミュニケーション				失語症に応じたコミュニケーション				演習	
6	利用者の特性に応じたコミュニケーション				構音障害に応じたコミュニケーション				演習	
7	利用者の特性に応じたコミュニケーション				聴力障害に応じたコミュニケーション				演習	
8	利用者の特性に応じたコミュニケーション				視力障害に応じたコミュニケーション				演習	
9	利用者の特性に応じたコミュニケーション				認知症に応じたコミュニケーション				演習	
10	利用者の特性に応じたコミュニケーション				知的障害に応じたコミュニケーション				演習	
11	利用者の特性に応じたコミュニケーション				精神障害に応じたコミュニケーション				演習	
12	チームにおけるコミュニケーション				チームコミュニケーションの意義、必要性、方法				演習	
13	チームにおけるコミュニケーション				記録				演習	
14	チームにおけるコミュニケーション				報告・連絡・相談、会議				演習	
15	まとめ				授業総括				演習	
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術（中央法規）※1年次購入済							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 講義内成果物 ・ 期末試験成績							

科目	社会学									
担当	山口 宏						配当年次	2 年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	人間と社会		人間と社会に関する選択科目	
目的・ねらい	現代社会の基礎的問題を理解し、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う学習とする。									
到達目標	①社会変化の流れ、社会問題などに対して考える力を養う。 ②戦後文化を理解することができる。 ③家族の現在と変容について、理解することができる。 ④人が社会で生きる中で関わる政治や権力の構造について多面的な理解をすることができる。									
内容・概要	戦後文化・家族・メディア・貧困・消費社会・差別・その他									
回数	テーマ				内容				授業方法	
1	導入				科目の目的、意義、進め方				講義	
2	戦後社会史①				敗戦から高度成長期へ				講義	
3	戦後社会史②				1960年代の社会運動とその後				講義	
4	戦後社会史③				1970年代と成長の陰				講義	
5	戦後社会史④				1980年代と消費文化				講義	
6	自己とコミュニケーション				心の焦点化と現代のコミュニケーション感覚				講義	
7	家族の変容と課題				現代家族の困難とこれから				講義	
8	貧困の多面性				貧困の現在とさまざまな側面				講義	
9	宗教と社会				世界宗教の文化と近年の問題				講義	
10	差別のとりえ方				固定的イメージの問い直し				講義	
11	優生思想				優生思想の歴史と現在				講義	
12	日本のなかの外国人				外国人が抱える困難と日本の課題				講義	
13	組織と集団				閉鎖性が生む暴力				講義	
14	グループワーク				授業内容を振り返りつつ				講義	
15	まとめ				補足とまとめ				講義	
使用テキスト・参考文献			使用テキスト：なし 参考文献：講義内で随時紹介							
単位認定の方法及び基準			毎回の授業内での記述 1 0 0 %							

科目	社会の理解 4 (地域福祉)									
担当	森若 茂治					年次	2 年次	時期	前期	
開講回数	15	時間数	30	授業方法	講義	領域	人間と社会		社会の理解	
目的・ねらい	地域社会の概念と理念、地域社会の現状と課題、地域福祉を推進する主体の特性と連携を学ぶ。特に、対象者の生活の場として地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。また、災害時における包括的支援を理解する。									
到達目標	①地域の現状・地域共生社会について理解し、地域福祉を推進する各主体の特性や役割を説明できる。 ②家族の概念と変容、役割を理解できる。地域、地域社会の変化を理解できる。 ③社会、組織の概念、機能と役割を理解できる。人のライフスタイルの変化を理解できる。 ④多職種・多機関の協働について理解できる。 ⑤地域包括ケアの理念と地域包括ケアシステムを理解できる。 ⑥災害時における包括的支援を理解できる。									
内容・概要	生活と福祉・家族・地域・社会、組織・生活支援と福祉、地域福祉、地域共生社会、地域包括ケアボランティア、多職種・多機関連携、災害時の包括支援									
回数	テーマ			内容				授業方法		
1	導入（地域社会・地域福祉の概要）			科目の目的、意義、進め方（地域社会・地域福祉の概要）				講義		
2	生活のしくみ			生活をとらえる				講義		
3	生活の基本機能			生活の多様性				講義		
4	ライフスタイルの変化（地域社会の変化）			生活と働き方の変化				講義		
5	ライフスタイルの変化（地域社会の変化）			少子高齢化と健康寿命				講義		
6	家族とは			家族の概念と変容、家族の構造、役割、家族観				講義		
7	社会・組織			社会・組織の機能と役割				講義		
8	地域・地域社会			地域・地域社会の理解				講義		
9	地域社会における生活支援			地域社会の変化				講義		
10	地域福祉			地域福祉と社会的孤立、構成要素、歴史的展開、推進主体①				講義		
11	地域福祉			推進主体②、地域福祉計画、ボランティア				講義		
12	地域福祉			推進主体③、災害時の包括的な支援				講義		
13	地域共生社会			地域共生社会の理念と実現に向けた取り組み				講義		
14	地域包括ケア			地域包括の理念、地域包括ケアシステム、多職種・多機関連携				講義		
15	まとめ			講義総括				講義		
使用テキスト・参考文献		最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解（中央法規）								
単位認定の方法及び基準		出席50% ・ 期末試験成績50%								

科目	生活支援技術 8（リハビリテーション）									
担当	尾崎 猛						年次	2 年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義・演習	領域	介護		生活支援技術	
目的・ねらい	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。									
到達目標	①リハビリの理念・目的を理解できる。 ②障害に対する考え方を理解できる。 ③リハビリの体系を理解することができる。 ④疾患・障害に対するアプローチを理解できる。 ⑤地域におけるリハビリを理解できる。 ⑥補装具、福祉用具と住宅改修を理解できる。									
内容・概要	リハビリテーションの考え方、疾患別の介助方法・補助具・福祉用具、ポジショニング、介護予防。国家試験に向けたリハビリテーションに関わる内容。									
回数	テーマ				内容				授業方法	
1	導入				科目の目的・必要性・進め方、リハビリ定義				講義	
2	リハビリテーションの理念				ノーマライゼーション・自立支援とリハビリ				講義	
3	障害に対する考え方				リハビリテーションの範囲、チームアプローチ				講義	
4	障害に対する考え方				ADL・QOLとリハビリテーション				講義	
5	障害に対する考え方				ICIDH・ICFとリハビリテーション				講義	
6	疾患・障害に対するアプローチ				脳血管疾患に伴うアプローチ				講義	
7	疾患・障害に対するアプローチ				片麻痺の起居移動・ADLに対するアプローチ				講義	
8	疾患・障害に対するアプローチ				高次脳機能障害に対するアプローチ				講義	
9	疾患・障害に対するアプローチ				認知症とリハビリテーション				講義	
10	疾患・障害に対するアプローチ				認知症に伴うアプローチ				講義	
11	疾患・障害に対するアプローチ				パーキンソンに伴うアプローチ				講義	
12	疾患・障害に対するアプローチ				呼吸器・循環器疾患に伴うアプローチ				講義	
13	介護予防				地域リハビリ、廃用症候群・骨折				講義	
14	その他リハビリテーション				福祉用具の活用と制度				講義	
15	まとめ				総合学習				講義	
使用テキスト・参考文献			学びやすいリハビリテーション論（金芳堂） 最新・介護福祉士養成講座（中央法規） 2. 社会の理解 6. 生活支援技術Ⅰ 7. 生活支援技術Ⅱ 8. 生活支援技術Ⅲ 14. 障害の理解							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 定期試験成績							

科目	生活支援技術 9（ターミナルケア）									
担当	廣瀬 玲子						年次	2 年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	演習	領域	介護		生活支援技術	
目的・ねらい	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。									
到達目標	①終末期における介護の意義・目的を理解できる。 ②終末期の歴史と現状を理解することができる。 ③終末期の対象を理解することができる。 ④終末期を支える制度を理解できる。 ⑤終末期における多職種連携と介護福祉士の役割を理解できる。 ⑥終末期にある対象の家族を支えるケアを理解できる。 ⑦死をめぐる倫理的課題を理解できる。 ⑧危篤時、臨終時のケアを理解できる。									
内容・概要	終末期の歴史と現状、対象、制度上、介護福祉士の役割、家族ケア、倫理的課題、危篤時、臨終期のケア、多職種連携									
回数	テーマ				内容				授業方法	
1	導入				科目の意義・目的・進め方、現時点での死生観				講義	
2	高齢者の死をめぐる状況				終末期介護の現状と特徴				講義	
3	人生の最期を支えるということ1				終末期介護の定義・利用者のアセスメント				講義	
4	人生の最期を支えるということ2				終末期を支える制度・死をめぐる倫理・尊厳				講義	
5	終末期における身体症状				終末期に出現する主な症状・兆候と危篤				講義	
6	終末期における心の状態を理解する1				終末期に出現する主な症状				講義	
7	終末期における心の状態を理解する2				死に対する恐怖・不安の捉え方・尺度				講義	
8	トータルケア				終末期の症状に対する医療・介護の実際				講義	
9	終末期の症状に対する支援の展開1				介護の技術展開				講義	
10	終末期の症状に対する支援の展開2				経過を理解				講義	
11	家族を支えるケア				グリーフケア				講義	
12	「死」をテーマにしたDVD				DVD鑑賞後の「死生観」を含む感想文				講義	
13									講義	
14	終末期における多職種連携				他職種連携・医療との連携・介護福祉士の役割				講義	
15	臨終時・まとめ				臨終時のケア（エンジェルケア）				演習	
使用テキスト・参考文献			なし							
単位認定の方法及び基準			出席・ミニテスト・レポート・提出物（50%）、レポート試験（50%）							

科目	認知症の理解 1（認知症理解）									
担当	高木 直美						年次	2 年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	こころとからだのしくみ		認知症の理解	
目的・ねらい	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。									
到達目標	①認知症ケアの歴史や理念を理解できる。 ②認知症高齢者の現状と今後を理解できる。 ③認知症に関する行政の方針と施策を理解できる。 ④認知症の種類と症状を理解できる。 ⑤認知症の診断、治療を理解できる。									
内容・概要	認知症を取り巻く状況、医学的側面からの認知症の基礎、 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、連携と協働、家族への支援									
回数	テーマ			内容				授業方法		
1	導入・認知症を取り巻く状況			科目の目的・必要性・進め方				講義		
2	〃			認知症ケアの歴史、現状と今後の方針				講義		
3	医学的側面から見た認知症の基礎			疾患の理解（脳のしくみ）				講義		
4	〃			疾患の理解（中核症状と B P S D）				講義		
5	〃			疾患の理解（アルツハイマー型認知症）				講義		
6	〃			疾患の理解（脳血管性認知症）				講義		
7	認知症の原因となる主な病気の症状の特徴			疾患の理解（レビー小体型認知症）				講義		
8	〃			疾患の理解（前頭側頭型認知症）				講義		
9	〃			疾患の理解（若年性認知症）				講義		
10	〃			疾患の理解（その他の認知症）				講義		
11	〃			疾患の理解を深める（復習）				講義		
12	認知症の診断と治療の基礎知識			認知症の診断の基礎知識				講義		
13	〃			認知症の治療の基礎知識（薬物療法）				講義		
14	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活			認知症の治療の基礎知識（非薬物療法）				講義		
15	まとめ			総括				講義		
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解（中央法規）							
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 期末試験成績							

科目	認知症の理解 2（認知症支援）										
担当	高木 直美						年次	2 年次	時期	前期	
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	こころとからだのしくみ		認知症の理解		
目的・ねらい	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。										
到達目標	①認知症の人の心理・行動の特徴を理解できる。 ②認知症に伴う機能の変化と、日常生活への影響を理解できる。 ③認知症介護のアセスメントを理解できる。 ④認知症の地域でのサポート体制や、チームアプローチを理解できる。 ⑤家族支援の在り方を理解できる。										
内容・概要	認知症を取り巻く状況、医学的側面からの認知症の基礎、認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、連携と協働、家族への支援										
回数	テーマ			内容					授業方法		
1	導入			科目の目的・必要性・進め方					講義		
2	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活			認知症の人の特徴的な心理的側面の理解					講義		
3	"			認知症ケアの原則					講義		
4	"			認知症ケア（コミュニケーションの原則）					講義		
5	"			認知症ケア（ユマニチュード）					講義		
6	日常生活の支援			認知症ケア（B P S Dの対応）					講義		
7	"			認知症ケア（非薬物療法）					講義		
8	"			認知症ケア（家族支援）					講義		
9	"			認知症ケア（社会資源）					講義		
10	"			認知症ケア（アセスメント）					講義		
11	"			事例検討					講義		
12	連携と協働			事例検討					講義		
13	"			発表					講義		
14	家族への支援			発表					講義		
15	まとめ			総括					講義		
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解（中央法規）								
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 提出物（内容） ・ 期末試験成績								